教職に関する科目（令和５年度入学生用）

科目コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要
70010	教職概論	2	30	1	前期	村瀬　桃子	○	
70020	教育原理	2	30	1	前期	村瀬　桃子	○	
70030	発達と学習	1	16	1	後期	石﨑　　毅	○	
70032	特別支援教育論	1	16	1	後期	石﨑　　毅	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)
	教育の制度と教育課程	2	30	2	後期	村瀬　桃子	○	
70110	国語科教育法	2	30	1	後期	高橋　永行	○	国語国文指定
70120	英語科教育法	2 ②	30	1	後期	北山　長貴	○	英語英文指定
70130	社会科教育法	2	30	1	後期	吉田　　歓	○	日本史指定
	道徳教育論	1	16	2	前期	棚村　　正	○	
	特別活動・総合的な学習の時間	2	30	2	集中	岩本　宏幸 安倍　啓司	○	前期開講（7～8月） 前期開講（7～8月）
	教育方法論	1	16	2	集中	朝倉　充彦	○	前期開講（7～8月）
	ＩＣＴ活用の理論と方法	1	16	2	集中	篠田　伸夫	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)
70221	生徒指導・進路指導論	2	30	1	後期	棚村　　正	○	
	教育相談論	1	16	2	前期	沼山　　博	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)
	教職実践演習（中学校教諭）	2	30	2	後期	石﨑・村瀬 高橋･北山･吉田	○	
	中学校教育実習	4	120	2	集中	石﨑・村瀬	○	
	事前・事後指導（中学校教諭）	1	45	2	集中	石﨑・村瀬	○	

教職に関する科目（令和４年度入学生用）

科目コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要
	教職概論	2	30	1	前期	村瀬　桃子	○	
	教育原理	2	30	1	前期	村瀬　桃子	○	
	発達と学習	1	16	1	後期	石﨑　　毅	○	
	特別支援教育論	1	16	1	後期	石﨑　　毅	○	
70041	教育の制度と教育課程	2	30	2	後期	村瀬　桃子	○	
	国語科教育法	2	30	1	後期	高橋　永行	○	国語国文指定
	英語科教育法	2 ②	30	1	後期	北山　長貴	○	英語英文指定
	社会科教育法	2	30	1	後期	吉田　　歓	○	日本史指定
70211	道徳教育論	1	16	2	前期	棚村　　正	○	
70213	特別活動・総合的な学習の時間	2	30	2	集中	岩本　宏幸 安倍　啓司	○	前期開講（7～8月） 前期開講（7～8月）
70214	教育方法論	1	16	2	集中	朝倉　充彦	○	前期開講（7～8月）
70215	ＩＣＴ活用の理論と方法	1	16	2	集中	篠田　伸夫	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)
	生徒指導・進路指導論	2	30	1	後期	棚村　　正	○	
70231	教育相談論	1	16	2	前期	沼山　　博	○	栄養大との合同授業 (単位互換による)
70240	教職実践演習（中学校教諭）	2	30	2	後期	石﨑・村瀬 高橋･北山･吉田	○	
70310	中学校教育実習	4	120	2	集中	石﨑・村瀬	○	
70330	事前・事後指導（中学校教諭）	1	45	2	集中	石﨑・村瀬	○	

講義科目名称：教職概論（70010）　　授業コード：70010

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	教職必修
担当教員			
村瀬　桃子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この授業は「教育の基礎的理解に関する科目等」にあたり、「教職の意義及び教員の役割・職務内容」を取り扱う。 教職に求められていることをつかむために、教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について知る。また、授業を通して自身の教職への適性を判断する。
授業計画	第1回　オリエンテーション 全15回の授業の流れを説明する。 第2回　戦後日本の教員養成について 戦後日本の教員養成、特に教員免許の変遷について知る。また、理想の教師像について、受講者それぞれ考え、簡潔に書いてみる。 第3回　教職観とその変遷 日本には、独特な教師像が歴史的につくられてきており、今日もその影響が色濃くみられる。どのような歴史的経緯で日本の教師像がつくられてきたのかを知る。 第4回　教職観とその変遷(専門職としての教職) 伝統的な教師像を残しつつ現在では教職は専門職として見られている。この議論の背景を知る。 第5回　グループワーク① 学校で起こりがちな問題について、ロールプレイをグループで行う。 第6回　教師の役割と仕事(1)法的に見た教師の役割 法的に見た教師の役割を確かめ、教師の仕事の特質と内容を知る。 第7回　教師の役割と仕事(2)教師の仕事の特質 教師というのは、他の職業にはない特質をもっている。その特質を知り、それぞれが目指す教師像を深める。学校では多様な子どもたちと関わることから、教師は「チーム学校」の一員としての専門性、また学校内外の人たちとの連携も強く求められていることを知る。 第8回　グループワーク② 学校で起こりがちな問題について、グループで話し合う。 第9回　教員の任用と服務(1)教員の配置と任用 教職員の配置と任用について、法的な面から確認する。 第10回　教員の任用と服務(2)教員の身分と任用 教員の身分と任用について、法的な面から確認する。 第11回　教員の任用と服務(3)身分保障と分限・懲戒 教員の身分保障と分限・懲戒について、法的な面から確認する。 第12回　教員の任用と服務(4)勤務条件 教員の勤務条件について、法的な面とともに現状（データ）を示すことで、問題を知る。（半分を朝の会・帰りの会という設定で、生徒役の学生に向かって、中学生に届く話や指導の仕方を考える。） 第13回　教師の資質向上と研修(1)教師の資質・能力 近年の教師の資質・能力をめぐる議論を知る。 （半分を朝の会・帰りの会という設定で、生徒役の学生に向かって、中学生に届く話や指導の仕方を考える。） 第14回　教師の資質向上と研修(2)教師の力量形成と研修制度 教員採用試験に合格し、教師になったら、勉強しなくて良いわけではない。教職に就いてからも学び続けるのが教職である。教師の資質向上のための研修制度について知る。 （半分を朝の会・帰りの会という設定で、生徒役の学生に向かって、中学生に届く話や指導の仕方を考える。） 第15回　教師の資質向上と研修(3)「チーム学校」と教師 「チーム学校」について、議論の背景や実際について知る。
授業概要	１．教育専門職（教育者）としての職務内容や身分、待遇等を知る。 ２．教育専門職（教育者）としての心構えをもつ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布プリントを復習する。日頃から教育問題について、関心を持つようにする。
テキスト	テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。資料等は必要に応じて配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教育専門職の「専門性」とは何かを、それぞれ考えてほしい。また、毎回感想を提出し、質疑応答(コメント)も行う。「教師の卵」として授業に参加する意識を持つこと（自治・自制・自立の意識）。 1年生で取得すべき教職の単位は、1年生のうちに取得すること。単位を1つでも落としたら、教育実習はできません。
評価方法	グループワーク（30%）、スピーチ（20%）、授業の感想（20%）、レポート（30%）によって評価する。提出物の期限を守るのは当然。遅れた場合は減点となる。

参考文献	参考文献については授業中にその都度通知する。
備考	

講義科目名称：教育原理（70020）　　授業コード：70020

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	教職必修
担当教員			
村瀬　桃子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	教育の基本的概念や理念、思想について、教育や学校の歴史をたどっていくことで理解する。また、それらがどのように現れてきたか、教育や学校の営みの変遷を理解する。
授業計画	第1回　オリエンテーション 講義のスタイルと全15回の授業の流れ、内容の概略を説明する。 第2回　「人間とは何か」という問いから考える ポルトマン『人間はどこまで動物か』を参考に、人間の特徴と教育について考える。 第3回　子育てと教育 近代学校が普及する前、庶民には学校は縁のないものだった。庶民は、どのような社会で育てられ、大人になっていったのかを知る。 第4回　学校の歴史―古代― 学校は古代から存在した。しかし、すべての子どもが通うところではなかった。どのような立場の者が学校を必要としていたかを知る。またソクラテス等の古代の教育思想にも触れる。 第5回　学校の歴史―中世～近世― 中世～近世にかけても、基本的に庶民にとって学校は遠い存在であった。それが変化し、すべての子どもに必要になっていくのであるが、そのきっかけとなる社会的ないくつかの出来事について知る。また、当時の教育思想（コメニウス等）についてもふれる。 第6回　学校の歴史―近代公教育― 近代になり、子どもに教育が必要な社会になっていくが、それはどのような社会的な変化があったからなのか。権利としての教育と、現実社会の要請としての教育の二面性について知る。また、ルソーやペスタロッチ等の教育思想にもふれる。 第7回　日本の教育―明治・大正― 日本の教育の近代化は明治から始まる。幕末からの変化、当時の日本は教育に何を求めていたかについて知る。さらに、欧米諸国に追いつきはじめたころの日本の教育（大正自由教育・新教育）について知る。 第8回　日本の教育―昭和初期― 大正自由教育・新教育が批判された後、不景気であった昭和初期に農村等で起こった教育運動（生活綴方運動等）と、戦争に向かう前の日本の教育について知る。 第9回　日本の教育―戦争と教育― 戦争中の日本の教育について知り、教育が戦争遂行のための手段と化していった経緯について知り、教育と政治・経済のあり方について考える。 第10回　日本の教育―戦後教育制度改革― 戦争遂行の手段と化してしまった教育を、どのように戦後民主化していこうとしたか、基本方針や法制度等を知る。 第11回　戦後日本の教育課程と学校経営 憲法・教育基本法・教育委員会法等の成立や、新制中学校・新制高等学校の理念、当時の教育実践を通して、戦後日本の教育課程や学校経営について知る。 第12回　1950年代の日本の教育 終戦直後の民主化から方針転換していく様子を、当時の国際情勢をおさえつつ知る。 第13回　高度経済成長期の日本の教育問題 1960年代の高度経済成長期に起こった教育問題について知る。 第14回　1970～80年代の日本における子どもの問題と学校 低成長時代の社会の変化と子どもの生活の変化をおさえながら、新たな教育問題（校内暴力・いじめ・不登校、等）の背景をおさえる。 第15回　現代の子ども・学校の問題 1990年代以降の様々な子どもの問題について、社会背景をおさえつつ、知る。
授業概要	１．人間に学びや教育が必要な理由、ならびにすべての子どもが学校に通う理由について知る。 ２．教育制度や教育課程等について、歴史的な背景をふまえた理解ができるようにする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布プリントを復習する。日頃から教育問題について、関心を持つようにする。
テキスト	テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	簡潔でわかりやすい講義を目指す。また、毎回感想を提出し、質疑応答(コメント)も行う。授業冒頭に行う「おまけ」は内容に配慮する。教育実習に行く立場の人が、授業態度等で注意されないようにすること。
評価方法	期末試験（筆記試験）：約70%、感想：約30%とする。 筆記試験も出席も、３分の２以上なければ当然「不可」である。
参考文献	参考文献については、授業中に必要に応じ紹介する。

講義科目名称：発達と学習（70030）　　授業コード：70030

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	教職必修
担当教員			
石﨑　毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ 　人の心的発達とその発達に応じた学習方略への理解を深める。 到達目標 　幼児、児童及び生徒の、 （１）心身の発達の過程及び特徴を理解する。 （２）学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえ学習の基礎理論を理解する。
授業計画	第1回　「発達と学習」とは（発達と学習にかかわる心理学） 第2回　「感覚と知覚」の発達 第3回　「認知」の発達 第4回　「言語と思考」の発達 第5回　「社会性」の発達 第6回　「認知心理学の視点に立った学習指導」の理論 第7回　「認知心理学の視点に立った学習指導」の実際 第8回　「認知カウンセリング」と学習指導
授業概要	幼児、児童及び生徒の心身の発達についての基礎的な知識を学ぶとともに、各発達段階における心的特性をふまえた具体的な学習活動がどうあればよいか考えることを通して、人の心的発達とその発達に応じた学習方略への理解を深めていきます。
実務経験及び授業の内容	中学校を中心として、小学校や高校でも授業を行ってきた実務経験を生かして、実践力を育めるように講義を行います。
時間外学習	授業でまとめたノートを使って毎回必ず復習してください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	人の発達と学習方略はともに寄り添って高めていかなければならないものであることを伝えていきたいと考えています。 質疑応答の時間では積極的に質問することを期待しています。さらに、講義の最後にその時間に考えたこと思ったこと感じたことをワークシートに記述することを求めます。 前期の教養科目「心理学」を受講しておくことが望ましいです。
評価方法	授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）７０％　期末課題又は定期試験（知識・思考）３０％
参考文献	「学習と教育の心理学」（市川伸一） 「発達心理学」（林創） 「発達と学習」（市川伸一）
備考	

講義科目名称：特別支援教育論（70032）　　授業コード：70032

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	教職必修
担当教員			
石﨑　毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ　　特別支援教育への理解を深める。 到達目標 （１）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性や心身の発達を理解するとともに、その教育課程や支援の方法を理解する。 （２）障害はないが、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	第1回　「特別支援教育論を学ぶ上で大切な姿勢」と「支援を必要とする様々な障害」 オリエンテーション 第2回　通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎① （ADHD：注意欠如多動性障害） 第3回　通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎② （SLD：限局性学習障害） 第4回　通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎③ （ASD：自閉症スペクトラム） 第5回　障害ではないが特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎 （日本語指導、LGBT、マルトリートメント、等） 第6回　学校におけるチーム支援と外部機関との連携及び個別支援計画 第7回　通級による指導と自立活動 第8回　特別支援教育の制度とインクルーシブ教育の今後
授業概要	特別支援教育のあり方や制度及び、通常学級に在籍する特別の支援を必要とする児童生徒の障害について学ぶとともに、すべての児童生徒たちが達成感を持ちながら生きる力を身につけていくための具体的な支援方法を考えることを通して、特別支援教育についての理解を深めていきます。
実務経験及び授業の内容	中学校及び小中一貫校や在外教育施設で特別支援教育コーディネータや学校心理士として勤務した実務経験を生かして事例研究などを盛り込み、実践力を育む講義を行います。
時間外学習	必要に応じて予習を課します。意見が述べられるように準備してください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	特別支援教育論はすべての人が幸せになるために必要不可欠な考え方であることを皆さんに伝えていきます。毎時間、自分と関連づけて深く考えることを期待しています。 各講義で質疑応答の時間を設けますので積極的に質問することを期待しています。さらに、講義の最後にその時間に考えたこと思ったこと感じたことをワークシートに記述することを求めます。（リモートの際には提出課題を求めます。）
評価方法	授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）７０％　期末課題又は定期試験（知識・思考）３０％
参考文献	「特別支援学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著　日本精神神経学会訳）
備考	

講義科目名称：教育の制度と教育課程(70041)　　授業コード：70041

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	教職必修
担当教員			
村瀬　桃子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項について、基礎的な知識を得る。学校と地域との連携や、学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。また、教育現場に合った教育課程の意義やその編成の方法(カリキュラム・マネジメント）を知る。
授業計画	第1回　オリエンテーション 全15回の授業の流れ、内容の概略を説明する。 第2回　教育制度 戦後日本の教育法体系、教育制度をふまえ、その意義・原理・構造を理解する。 第3回　学校および地域社会の変化と教育政策 近年の子どもを取り巻く社会の変化と、学校の変化をおさえ、教育政策がいかに変遷してきたかを理解する。特に近年における学校と地域との連携や協働の取り組みについてその経緯や意義を理解する。 第4回　現代公教育制度と法① 憲法と1947年教育基本法と「改正」教育基本法、学習指導要領 日本国憲法と1947年制定教育基本法と2006年制定教育基本法の違いを理解する。 第5回　現代公教育制度と法② 教職員、特に親や子どもに関する法規について、概観する。 第6回　現代公教育制度と行政（教育委員会の役割） 教育委員会とはどのような場で、どのような仕事をしているか、学校との関係を理解する。 第7回　学校安全 災害や事故等が学校で起こった場合、安全をどう確保するかを理解する。 第8回　教育課程の意義と編成の目的 戦後の教育課程の編成に関する考え方を概観しつつ、その意義と目的を理解する。 第9回　学習指導要領 戦後導入された学習指導要領について、歴史的変遷を追いつつ、性格や位置づけを理解する。 第10回　教育課程編成の基本原理 教育課程編成の基本原理をおさえ、教育実践に即した方法とは何かを理解する。 第11回　教育課程とカリキュラム 学習指導要領に沿ったカリキュラム・マネジメントを理解する。 第12回　教育課程と教科外活動 教育課程における教科外活動、「総合的な学習の時間」の位置づけをおさえ、カリキュラム・マネジメントについて理解する。 第13回　教育課程の編成と地域社会 教育課程の編成を中心とした「学校づくり」と「地域との連携」の関係について、事例を通して理解する。 第14回　教育課程の編成及び学級経営 教育課程の編成とは、学校を経営するとは何か、組織全体で取り組むべきことを知る。また、学級を経営するとは何か。クラス担任になったとしたら、どのようなクラスにしたいか、グループワークをしながら教科や学年を横断した長期的な指導についても、最新の学習指導要領を参考に考える（カリキュラム・マネジメント）。 第15回　ロールプレイ 学校で問題が起こった時、担任としてどのように対処するか。学年主任や管理職との連携、地域との連携も視野に入れ、グループでのロールプレイを通し、教育課程全体をマネジメントする視点にも立ちつつ考える。
授業概要	１．「教育に関する社会的，制度的又は経営的事項」についてワーク等を通し知る。 ２．教育課程の意義及び編成の方法について、関連する法や制度等をふまえながら、客観的・批判的に見られる力をつける。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布プリントを復習する。日頃から教育問題について、関心を持つようにする。
テキスト	テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。参考文献については、授業中に必要に応じ紹介する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できる限り教育現場を視野に入れた活動をする。知識を問うのではなく、授業での積極的な発言や参加を期待する。
評価方法	グループワーク(30%)、課題(30%)、積極性（授業中の発言やグループ活動でのリーダーシップ等、20%）、感想（20%）。

講義科目名称：国語科教育法（70110）　　授業コード：70110

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職選択必修
担当教員			
髙橋　永行			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	中等教育における国語科教育の目標を的確に理解し、生徒たちの資質・能力の育成を目指す。 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する授業ができる(ことが理想)。
授業計画	第1回　導入　国語科教育法で何を学ぶか 講義計画の理解 グループ討論「中学校国語授業の思い出　なぜ国語を学ぶのか」(序章) 第2回　国語科の制度、発問・指示・板書・ノート指導・ワークシート(2・3章) 教育基本法 学習指導要領と教科書(1章)を含む 第3回　「話すこと・聞くこと」の授業(4章)　「読むこと」の授業(6章)　ことばを育む詩歌の授業(7章) 聞くことの学習はどのように積み重ねたらよいか 「書くこと」の授業(5章) 第一学年説明文導入授業の進め方 国語学習と図書館の読書活動を連携させるには 実践報告「対話力を育てながら短歌を解釈する」 第一学年説明文導入授業教授法 第4回　効果的な学習指導の進め方と授業評価(9・10章)　指導計画・学習指導案の作成(11章) 模擬授業準備 第5回　授業計画に沿った模擬授業実践演習① 第一学年文学的文章導入授業の進め方 光村「シンシュン」 第6回　授業計画に沿った模擬授業実践演習① 第二学年文学的文章導入授業の進め方 東京書籍「辞書に描かれたもの」 第7回　授業計画に沿った模擬授業実践演習② 第一学年文学的文章導入授業の進め方(改善) 第8回　授業計画に沿った模擬授業実践演習② 第二学年文学的文章導入授業の進め方(改善) 第9回　授業計画に沿った模擬授業実践演習③ 第一学年説明的文章導入授業の進め方 光村「言葉を持つ鳥シジュウカラ」 第10回　授業計画に沿った模擬授業実践演習③ 第二学年説明的文章導入授業の進め方 東京書籍「ハトはなぜ首を振って歩くのか」 第11回　授業計画に沿った模擬授業実践演習④ 第一学年説明的文章導入授業の進め方(改善) 第12回　授業計画に沿った模擬授業実践演習④ 第二学年説明的文章導入授業の進め方(改善) 第13回　研究授業に備えた課題学習 伝統的な言語表現の授業計画 枕草子と徒然草、係り結びをどう教えるか 第14回　古典の授業(8章) 分科会形式による課題学習 伝統的な言語表現と言語活動を通して学ぶ授業デザイン 第15回　古典の授業(8章) 研究授業方式による課題学習
授業概要	国語科教育におけるさまざまな学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行えるようになること。各回の詳細については最初の授業で説明する。研修会での発表、模擬授業での教諭または生徒役を演習方式で行う。MicrosoftのTeamsの機能も利用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	随時テキストの読み直しをすること。
テキスト	町田守弘『実践国語科教育法　「楽しく、力のつく」授業の創造』第三版　学文社　￥2,200＋税 ISBN9784762028601 さわらび購買部で受講生分だけ販売します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生主体の進め方をします。教育実習を効果的に行えるようになることを目標としています。実習生であっても生徒の前では責任ある教師の一人です。グループ協同での教材研究と授業作り実習(ミニティーチング)は積極的に参加しましょう。

評価方法	授業への参加度80%(グループによる教材研究・指導案・模擬授業における発言・姿勢を評価)。 期末レポート20%。
参考文献	富山哲也『中学校新学習指導要領の展開　国語編』明治図書 高木まさき『国語科における言語活動の授業づくり入門』教育開発研究所 安居總子他『中学校国語授業づくりの基礎・基本　学びに向かう力を育む学習環境づくり』東洋館出版社 『教育科学　国語教育』月刊　明治図書　国文合研配架 『実践国語研究』隔月　明治図書　図書館1F配架 『月刊　国語教育研究』日本国語教育学会　髙橋研究室配架
備考	

講義科目名称：英語科教育法（70120）　　授業コード：70120

英文科目名称：Methods of Teaching English as a Second Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職選択必修
担当教員			
北山　長貴			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	・中学校の外国語（英語）学習・指導の知識と授業指導及び学習評価の基礎を学ぶことをテーマとします。 ・教育実習に備えて学習指導案の作成と授業が行えることを目標とします。
授業計画	第1回　中学校の学習指導要領について 第2回　中学校の教科用図書について（『New Horizon 1-3』） 第3回　「３つの資質・能力」と年間、単元、各授業時間の指導計画について 第4回　小学校の外国語活動について（『We Can!! 1, 2』『Let's Try! 1, 2』） 第5回　聞くこと、読むことの指導方法 第6回　話すこと（やり取り・発表）、書くことの指導方法 第7回　英語の音声的な特徴に関する指導方法 第8回　文字、語彙、表現、文法に関する指導方法 第9回　教材研究・ICT等の活用について 第10回　生徒の特性や習熟度に応じた指導（インクルーシブ教育） 第11回　学習指導案の作成について（学習到達目標、学習状況の評価を含む） 第12回　言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について 第13回　第二言語習得に関する知識とその活用について 第14回　授業観察（米沢第一中学校にて）（TT、インタラクションについて） 第15回　模擬授業（異文化理解、複数領域を統合した言語活動をふくむ）
授業概要	授業では、１．カリキュラム／シラバス、２．生徒の資質・能力を高める指導、３．授業づくり、４．学習評価、５．第二言語習得について理解し、身に付け、授業指導に生かすことができるようにします。
実務経験及び授業の内容	県立高等学校での教諭の実務経験があり、この経験を生かし英語科教育法の授業を行います。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	・『最新英語科教育法入門』土屋澄男他編著（研究社）2500円（本体価格）【さわらびで購入できます】 ・『New Horizon 1, 2, 3』（東京書籍）1100円（本体価格）【未入荷のため後日購入してもらいます】
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・指導案を作成し模擬授業を全員に行ってもらいます。 ・英検2級または同等の英語能力を有する学生。
評価方法	レポート（２０％）、模擬授業（５０％）、指導案（３０％）
参考文献	「中学校学習指導要領」（平成29年告示）
備考	

講義科目名称：社会科教育法（70130）　　授業コード：70130

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職選択必修
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	中学校における社会科教育のあり方、さらに学習指導の方法について探っていく。学校教育の場で、常に基本となるのは『学習指導要領』であり、まずその理解が求められる。その上で、実践的な授業計画案・指導案の作成を試みる。また、模擬授業を行うことで、実践力を付ける。
授業計画	第1回　教員になる心構えと社会科という科目について 第2回　『学習指導要領』と歴史分野の学習指導案の作成と授業の準備・方法（情報機器及び教材の活用） 第3回　模擬授業①「平氏政権について」 第4回　模擬授業②「鎌倉幕府の成立について」 第5回　模擬授業③「蒙古襲来について」 第6回　『学習指導要領』と地理分野の学習指導案の作成と授業の準備・方法（情報機器及び教材の活用） 第7回　模擬授業①「自然と地形」 第8回　模擬授業②「世界の国々」 第9回　模擬授業③「日本の自然と地理」 第10回　『学習指導要領』と公民分野の学習指導案の作成と授業の準備・方法（情報機器及び教材の活用） 第11回　模擬授業①「人権と日本国憲法」 第12回　模擬授業②「人権と共生社会のあり方」 第13回　模擬授業③「国の政治の仕組み」 第14回　模擬授業のふりかえり 第15回　実習に向けた課題と対応
授業概要	社会科の特徴をつかむとともに、実際に受講生に模擬授業をしてもらう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	出された課題などを事前に準備すること。
テキスト	プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教師の卵として意欲を示してほしい。指導案作りや教材研究、さらに模擬授業を行うので、積極的に行動することを期待している。講義を聴くだけでなく主体的に取り組んで欲しい。
評価方法	積極的な授業への参加度（30%）、提出物（30%）、模擬授業（30%）、 レポート（10%）
参考文献	「中学校学習指導要領(最新版)」
備考	

講義科目名称：道徳教育論（70211）　　授業コード：70211

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	１	教職必修
担当教員			
棚村　正			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	道徳教育や道徳科の考え方と進め方の基本を身に付けることができるようにする。具体的には、 １）学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の意義と原理等を理解する。 ２）道徳教育の要となる道徳科の目標、内容、指導計画、指導方法について理解する。
授業計画	第1回　道徳教育の意義の原理① 第2回　道徳教育の意義の原理② 第3回　道徳教育の目標・内容・指導計画 第4回　道徳教育の方法 第5回　道徳科教育の実践 第6回　道徳科の指導の実際①　道徳科指導法の基本 第7回　道徳科の指導の実際②　多様な指導法 第8回　道徳科の指導案作成
授業概要	①～③について、多様な実践例をもとに、より具体的に学ぶことができるようにする。 ①道徳教育の意義や原理 ②道徳教育の目標、内容、指導計画、指導方法 ③道徳科の教材研究や指導案作成
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的、積極的に考えること。
テキスト	中学校学習指導要領解説　道徳編
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	興味を持って学習できるように新しい教科書教材を多く取り入れていきたい。また、発声や表現の工夫と視聴覚機器の活用によって、内容がはっきり伝わるようにしたい。
評価方法	まとめレポート３０％　課題レポート３０％　講義への参加度４０％
参考文献	適宜資料として配布する。
備考	

講義科目名称：特別活動・総合的な学習の時間（70213）　　授業コード：70213

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	２	２	教職必修
担当教員			
岩本　宏幸・安倍　啓司			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	特別活動及び総合的な学習の時間の意義や目標、特質など、指導に必要な知識や素養を身に付ける。具体的には、 １）特別活動の意義や役割、目標及び内容を理解する。 ２）集団活動の意義を理解し、指導のあり方を理解する。 ３）生徒会活動、学校行事、クラブ活動、及び学級活動の内容と指導のあり方を理解する。 ４）総合的な学習の時間の意義や役割、目標及び内容を理解する。 ５）総合的な学習の時間の指導計画の考え方や重要性を理解する。 ６）総合的な学習の時間の指導案を作成し、模擬授業を行い、実践上の留意点を理解する。
授業計画	第１回　特別活動と集団活動の意義（安倍） 第２回　特別活動の目標と内容（安倍） 第３回　学級活動の目標と内容（安倍） 第４回　学級活動の内容とその指導（１）―好ましい人間関係の構築―（安倍） 第５回　学級活動の内容とその指導（２）―学級経営―（安倍） 第６回　生徒会活動、学校行事、クラブ活動の内容とその指導（安倍） 第７回　学校と家庭・地域との連携（安倍） 第８回　総合的学習の時間の意義と役割（岩本） 第９回　総合的学習の時間の目標と内容（岩本） 第10回　総合的学習の時間の指導計画（岩本） 第11回　総合的学習の時間の指導方法と評価（岩本） 第12回　総合的学習の時間の教材研究（岩本） 第13回　総合的学習の時間の指導案作成（岩本） 第14回　総合的学習の時間の模擬授業（１）－模擬授業（岩本） 第15回　総合的学習の時間の模擬授業（２）－模擬授業と全体討論（岩本）
授業概要	次の点について、講義に適宜グループワークを組み合わせて能動的に学ぶことができるようにする。①特別活動の意義や役割、目標及び内容、②集団活動の意義と指導、③学級活動、生徒会活動、クラブ活動、及び学校行事の内容と指導、④学校と家庭・地域との連携、⑤総合的な学習の時間の意義や役割、目標及び内容、⑥総合的な学習の時間の指導計画、⑦総合的な学習の時間の指導案作成および模擬授業。
実務経験及び授業の内容	小学校教員としての実務経験と、仙台市小学校特別活動研究会での研究実績があり、この経験を生かし特別活動の授業を行う。(安倍) 小学校教員としての実践経験及び、教育委員会指導主事としての小中学校への指導経験を生かして授業を行う。（岩本）
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。(安倍) 前半での学びを手掛かりに単元をデザインして提出すること。（岩本）
テキスト	中学校学習指導要領（最新版）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生の興味関心、課題意識を高めるように学校現場の具体的な事例を取り上げながら講義を進めたい。(安倍) 学び手の豊かな探究活動を支えていくためには，教師側の探究経験が大きな鍵となります。探究的・問題解決的な学びのあり方について、経験的・実践的に学びながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための資質・能力を高めていきましょう。(岩本)
評価方法	授業内レポート６０％　指導案・模擬授業への取り組み４０％

講義科目名称：教育方法論（70214）　　授業コード：70214

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	２	１	教職必修
担当教員			
朝倉　充彦			
			講義形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞　教育方法の理論と実践 ＜到達目標＞子どもを理解し支援できる教師として、何のために（目的）何を（内容）どのように（方法）教えたらよいかを常に意識し考えることができる力を身につける。具体的には次の通りである。 １．教育方法や学習指導の基礎理論について説明できる。 ２．現行の学習指導要領における教育方法についての考え方を説明できる。 ３．授業づくりにおける教室環境や教育技術、情報機器の役割について説明できる。 ４．教育評価の基本的な理論を説明できる。 ５．１～４を踏まえ、教育実践事例について分析考察することができる。
授業計画	第１回　教育方法の基礎理論（１）：教育方法・学習指導の対象と原理 第２回　教育方法の基礎理論（２）：教育方法・学習指導の歴史 第３回　教育方法の基礎理論（３）：現行学習指導要領における基本的な考え方 第４回　教育評価の基礎理論 第５回　授業づくりと教育技術 第６回　情報機器及び教材を活用した授業づくり 第７回　アクティブラーニングの授業プランの作成 第８回　アクティブラーニングの授業実践
授業概要	まず教育方法や学習指導、教育評価の基礎理論について概説する。それらの歴史を踏まえながら、現行学習指導要領における考え方も考察する。次に、授業づくりをする上での、教室環境や教育技術、情報機器・教材の役割について解説する。以上を踏まえ、受講生に学習指導案を作成してもらい、さらにグループディスカッションを行って、指導案のブラッシュアップを図る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、地域を取り巻く問題に興味・関心を持つこと。授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	最新の「中学校学習指導要領」、その他資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生の興味を引くように身近な事例を多く取り入れながら講義を進めていきたい。
評価方法	授業内小レポート40%。発表やディスカッション等での積極的な意見発表状況30%。 最終課題レポート30%。
参考文献	講義内で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：ＩＣＴ活用の理論と方法(70215)　　授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	２	１	教職必修
担当教員			
篠田　伸夫			
			講義形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ:情報通信技術(ICT)を効果的に活用した 学習指導や校務の推進の在り方および，児童及び生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 到達目標:(1)情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。(2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。(3)児童及び生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を理解する。
授業計画	第１回　現代社会におけるICTの役割 ICTの歴史を概観し，現代社会の特徴とICTの役割について概説する。 第２回　情報発信・情報コミュニケーションとモラル 情報コミュニケーションについて概説し，ICT利活用時のモラルについて考察する。 第３回　ICTを活用した学習指導とデジタルコンテンツの活用 学習指導におけるICTの活用例を紹介し，ICTの広範な利用例について解説する。 第４回　個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT の活用と遠隔授業 集団・個別／対面・遠隔等学習場面の違いとICTの利活用について考察する。 第５回　児童生徒による ICT 活用 児童生徒の発達段階について概説し，発達段階に応じたICT機器活用について考察する。 第６回　児童生徒の情報活用能力の育成 情報活用能力の側面からみた授業と児童生徒の学習活動の事例を紹介する。 第７回　校務の情報化とデータの活用 校務の実際について概説し，ICTによる仕事の変化や，データ活用について紹介する。 第８回　最新のICTと教育場面への適用 ICTの最新情報について解説し，将来の教育場面への応用について考察する。
授業概要	主に資料を提示しながら講義形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習または復習のための課題資料を提示するので事前に読んでまとめておくこと。
テキスト	授業時に資料を提示
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	小レポート 50%，筆記試験 50%
参考文献	授業時に紹介します
備考	

講義科目名称：生徒指導・進路指導論（70221）　　授業コード：70221

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	教職必修
担当教員			
棚村　正			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生徒指導及び進路指導の考え方と進め方の基本を身に付けることができるようにする。具体的には、１）生徒指導の意義と理論を理解する。２）生徒指導の機能と進め方を理解する。３）児童生徒が抱える様々な生徒指導上の課題への対応の在り方を理解する。４）進路指導・キャリア教育の意義と理論を理解する。５）進路指導・キャリア教育のガイダンス機能やカウンセリング機能を理解する。
授業計画	第1回　生徒指導の意義 第2回　生徒指導の理論 第3回　生徒指導の方法と計画 第4回　生徒理解（実態・方法・展開・連携） 第5回　生徒指導の実際①―生徒全体への指導― 第6回　生徒指導の実際②―個々の生徒への指導― 第7回　生徒指導の実際③―今日的な課題と連携― 第8回　生徒指導と学級づくり 第9回　進路指導・キャリア教育の意義 第10回　進路指導・キャリア教育の理論 第11回　進路指導・キャリア教育の方法と計画 第12回　進路指導・キャリア教育の実際①―生徒全体への指導― 第13回　進路指導・キャリア教育の実際②―個々の生徒への指導― 第14回　進路指導・キャリア教育の実際③―キャリアカウンセリング― 第15回　進路指導・キャリア教育のまとめ
授業概要	次の点について、講義とグループワークを組み合わせ、事例を通して活動的に学ぶことができるようにする。①生徒指導の意義と理論、②生徒指導の機能と進め方、③児童生徒が抱える様々な生徒指導上の課題への対応、④進路指導・キャリア教育の意義と理論、⑤進路指導・キャリア教育のガイダンス機能やカウンセリング機能。
実務経験及び授業の内容	現場で教員として38年勤務した経験を活かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞、他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。
テキスト	文部科学省「生徒指導提要」
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	今、学校は様々な生徒指導上の課題を抱えて対応に努力しています。その背景や生徒の発達的課題を踏まえ、生徒指導のあり方を考えます。同時に、家庭における子育てについても考えます。 「生徒指導のあり方」は子ども達の「生き方指導」につながります。また、「教師のあり方」にもつながります。これらのことについても、学校現場の実情に即して触れていきます。 自立的な「生き方」につながる「進路指導」について考えます。
評価方法	期末テスト６０％　課題レポート２０％　授業への参加度２０％
参考文献	適宜資料として配布する。
備考	

講義科目名称：教育相談論（70231）　　授業コード：70231

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	１	教職必修
担当教員			
沼山　博			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	授業テーマ：学校における教育相談の研究 到達目標： １）学校における教育相談の意義と課題を理解している。 ２）教育相談を進める際に必要な心理学やカウンセリングに関する基礎的な理論や概念を理解している。 ３）教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。
授業計画	第1回　教育相談の意義と課題①―生徒指導と教育相談― 第2回　教育相談の意義と課題②―学校における教育相談の特質と課題― 第3回　教育相談の方法①―子どもの行動の心理的意味とアセスメント― 第4回　教育相談の方法②―カウンセリングの基礎的姿勢と技法― 第5回　教育相談の方法③―教育相談の進め方― 第6回　教育相談の体制づくりと組織的取り組み、地域との連携 第7回　教育相談における保護者とのかかわり 第8回　教育相談や生徒指導で活用できる技法 第9回　試験
授業概要	学校における教育相談について、①教育相談の意義と課題、②教育相談の理論、③教育相談の方法や進め方、体制づくり、の３点から概説する。
実務経験及び授業の内容	スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、カウンセリングの基礎についてより実践的な講義を行う。
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。
テキスト	文部科学省「生徒指導提要」（平成22年度版と令和４年度改訂版） ※令和４年度改訂版は次のURLにて公開されています。 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%
参考文献	適宜資料として配布する。
備考	講義日程に注意すること（４～５月中旬、６月下旬～７月に８回開講予定）。 ロールプレイ等、実際に人とかかわる場面があるので、留意して受講すること。 教材等の都合により、授業計画が変更になることがあります。 提出物は締切を厳守すること。

講義科目名称：教職実践演習(中学校教諭)（70240）　　授業コード：70240

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	教職必修
担当教員			
石﨑・村瀬・高橋・北山・吉田			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1．教職課程で履修した講義及び教育実習で学んだことを統括し、教員に求められる資質能力を確認する。
授業計画	第1回　ガイダンス(教職実践演習の説明及び教育課程履修カルテの作成) 第2回　教育実習の振り返り（小グループで検討） 第3回　模擬授業と授業改善(1)（指導案の作成） 第4回　模擬授業と授業改善(2)（模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成） 第5回　模擬授業と授業改善(3)（模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成） 第6回　模擬授業と授業改善(4)（模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成） 第7回　模擬授業と授業改善(5)（模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成） 第8回　模擬授業と授業改善(6)（模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成） 第9回　模擬授業と授業改善(7)（模擬授業と討論、学科混合でクラスを編成） 第10回　現職教員の講話（学校現場が求める教員像） 第11回　栄養教諭の講話（学校現場が求める栄養教諭像） 第12回　教員経験者の講話（学級経営） 第13回　教育問題を考える(1)（いじめ、不登校等）（小グループでの討議等） 第14回　教育問題を考える(2)（SNSの活用等）（小グループでの討議等） 第15回　まとめ（教職課程で学んだことを総括）
授業概要	1．模擬授業や小グループでの討議を通じて、教員に求められる資質能力について考える。
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし教職実践演習（中学校教諭）の授業を行う。
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	各学習指導要領及び解説
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	グループ討議やロールプレイなどがあるので、積極的な姿勢で臨んで欲しい。グループ分けやロールプレイでの役割分担などが強制的に割り振られることがあるが、時間等の制約もあるので了承していただきたい。なお、やむをえず欠席する場合は欠席届を担当教員に提出すること。授業で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていくので、理解度について確認を行うこと。
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容、レポート、講話振り返り等（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：中学校教育実習（70310）　　授業コード：70310

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	２	４	教職必修
担当教員			
石﨑・村瀬			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	１．中学校教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、教育者としての使命感や倫理観を培う。
授業計画	第1回　教育実習オリエンテーション 第2回　中学校教育の観察・参加・実習 第3回　実習レポート、実習結果の整理と反省 第4回　事後指導（報告会）
授業概要	１．中学校の教育活動に、教師としての立場で実際に参加することによって、教科及び教科外教育の意義と内容を体得する。
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし中学校教育実習の授業を行う。
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	「教育実習の手引き」（購入）　「教育実習ノート」（配布）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・教育実習オリエンテーションをはじめとして教職関係について、掲示板で連絡します。日頃からチェックするようにしてください。 ・教育実習オリエンテーションには、必ず出席すること。 ・教育実習に行く前に、教科書を取り寄せ、教材研究をしっかりしておいてください。また、実習では、担当学級の生徒の名前を早く覚え、明るく、積極的に話しかけるように心がけてください。 ・教員に必要なルールやマナーを身に付けること。 ・授業の中で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていきます。
評価方法	実習中学校の評価（50%）、実習ノート及び実習レポートの評価（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：事前･事後指導(中学校教諭)（70330）　　授業コード：70330

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2	1	教職必修
担当教員			
石﨑・村瀬			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	１．中学校教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、教育者としての使命感や倫理観を培う。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　日程確認・教育実習の目的と意義 第3回　教育実習の心得 第4回　教育実習ノートの作成方法 第5回　生徒の理解 第6回　児童・生徒とのコミュニケーション 第7回　道徳教育の方法 第8回　教育実習のポイント 第9回　中学校教育について 第10回　生徒指導について 第11回　各教科の学習指導について 第12回　各教科学習指導案について 第13回　介護等体験の説明 第14回　教育実習報告会 第15回　まとめ
授業概要	１．中学校の教育活動に、教師としての立場で実際に参加することによって、教科及び教科外教育の意義と内容を体得する。
実務経験及び授業の内容	特別支援学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし事前･事後指導(中学校教諭)の授業を行う。
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	「教育実習の手引き」（購入）　「教育実習ノート」（配布）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・教育実習オリエンテーションをはじめとして教職関係について、掲示板で連絡します。日頃からチェックするようにしてください。 ・教育実習オリエンテーションには、必ず出席すること。 ・教育実習に行く前に、教科書を取り寄せ、教材研究をしっかりしておいてください。 ・また、実習では、担当学級の生徒の名前を早く覚え、明るく、積極的に話しかけるように心がけてください。 ・教員に必要なルールやマナーを身に付けること。 ・授業の中で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていきます。
評価方法	実習中学校の評価（50%）、実習ノート及び実習レポートの評価（50%）
参考文献	
備考	